

「研究テーマ」	園運営の要としての主任の役割 ～役割を果たすための力量を身に付ける～
---------	---------------------------------------

### 1 研究目標

社会情勢や幼稚園を取り巻く状況が変化していく中で、急速な少子化の進行や家庭環境及び地域状況の変化等が複合的に絡み合い、幼児の生活体験の不足を原因とした様々な課題が見られる。新しい生活様式の中で、感染症対策をしながら幼児期に育みたい資質・能力を育成するため、幼児教育の質の向上に一層取り組んでいく必要がある。

昨年度は、それぞれの立場や園の実状に合わせた研究の視点を窓口として、子供の育ちにつながる具体的な保育実践や職員への助言方法について学び合ったり、保育や園内研修の場で職員をリードしていく主任の役割について意見交換をしたりして研修を深めてきた。グループで視点を絞った研修をする中で、各々が保育の充実に向けた成果を得ることができた。しかし、今後も教師としての資質・専門性の向上を図るために、自己課題を明確にした研修に臨む必要がある。

そこで、本年度も研究テーマを「園運営の要としての主任の役割～役割を果たすための力量を身に付ける～」とし、主任として園児や保護者、地域、職員構成などの自園の実態を把握する力や確かな幼児理解を基に一人一人の職員へ適切な助言をする力など、職員集団の要として園運営を円滑に進めるための主任としての力量を身に付けられるよう、研修を積み上げていきたい。

### 2 研究内容

- (1) それぞれの立場や園の実状に合わせた研究の視点を窓口として、子供の育ちにつながる具体的な保育実践や職員への助言方法について協議をする。
- (2) 園の要としてリードしていく主任としての役割について協議し、力量を身に付ける。

### 3 研究方法

#### (1) グループ構成について

- ① 主任としての経験年数や研修したい項目の希望調査を行い、主任班1、主任班2に分ける。

<視点例>

- ア 教育課程の編成
- イ 少人数園に特化した教育課程の編成
- ウ 防災や安全指導による危機管理
- エ 発達支援教育の理解と保育の充実
- オ 「幼児期に育てたい力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)の園内研修への活用
- カ 幼小の円滑な接続
- キ 預かり保育の充実
- ク 家庭への発信の仕方や保護者対応

○各グループで研究の視点を選択する。3回共に同じ視点でも毎回視点を変えてもよい。  
各グループで選択した視点の資料を必要に応じて用意する。

- ② グループごとに司会、記録を決め主体的に研修を進める。

#### (2) グループ協議について

##### ① 第1回

○自己課題やグループの視点について方向性を話し合い、共通理解を図る。

##### ② 第2回

○グループの視点に沿った実践について協議する。1学期の取組を振り返り、自己課題と方策に対する成果、課題、今後に向けた手立てについて話し合う。

○講演 静岡県立大学短期大学部 教授

③ 第3回

○グループの視点に沿った実践について協議する。2学期の取組の中間報告から、自己課題と方策に対する成果、課題、今後に向けた手立てについて話し合う。

○今年度の研究に関するまとめをし、次年度につながる協議をする。

(3) 事前研修について

① 全3回

グループの視点に沿った実践について必要な資料を持ち寄る。

4 研究計画

※新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、日程や内容が変更になることがあります。

回	日時	内容	会場
1	6月8日 (水) 午後	1 グループ協議 ・自己紹介やグループの視点について方向性を話し合い、共通理解を図る。 ・グループの視点に基づいた協議 2 助言者御指導	浜松市 教育会館
2	7月27日 (水) 午前	1 グループ協議 ・グループの視点に沿った実践について協議 ・1学期の取組から自己課題と方策に対する成果・課題・今後に向けた手立ての協議 2 助言者御指導 3 全体会 ・園長会長あいさつ ・講演 静岡県立大学短期大学部 教授	浜松市 教育会館
3	10月26日 (水) 午後	1 グループ協議 ・グループの視点に沿った実践について協議 ・2学期の取組から自己課題と方策に対する成果・課題 今後に向けた手立ての協議 ・今年度の研究に関するまとめと次年度につながる協議 2 助言者御指導	浜松市 教育会館